

海外ナメント参加規約

《スタート前に必読》

本規約記載のルールとマナー（TBCルール）についての項目を確実に把握すること。失格、ペナルティになり、聞いてないよ！知らなかったは通用しません！

年度途中で改定することがある。

2020/1/19

2020 第1版

大会中緊急連絡先

TEL 0476-80-0388 TBC事務局まで

留守番電話となっている場合はメッセージを残すこと。

TBC2020 利根川バスクラフトーナメントルール

【参加費】

年間登録費（事前振込） class-1 20,000円 regular 20,000円
エントリー費（事前振込） class-1 10,000円×5 regular 6,000円×5
都度払いの場合は参加試合1試合につき+1,000円
open challengeは参加試合1試合につき3,000円
（クラシックのエントリー費はない予定。）

【参加資格】

所定の手続きを経てTBCメンバー登録を行った者(class-1、regular、open challengeとも)。かつ、北総マリンゲレンデ会員となっていること。（レンタルポートによる参加はこの限りではない。）

class-1参加資格

18歳以上（1名乗船、レンタルポート可）
ボートライセンス2級以上
ボートは原則13ft25ps以上
トレーラー車検証を提出（大会までに揃えればOK）
対人・対物・搭乗者保険に加入すること。（大会までに揃えればOK）
TBC事務局にて直接登録申込書を提出すること。
北総マリンゲレンデ会員であること。

regular、open challenge参加資格

16歳以上でボートを持っている方（2名乗船及びレンタルポート可）
ボートライセンス2級以上、保険に加入すること
2名乗船の場合はボートは14フィート以上でライブウェルは2箇所以上必要！なお、クーラーボックスをライブウェルとして使用することは認める。
TBC事務局に登録申込書を提出すること。
北総マリンゲレンデ会員であること。

【大会役員】

大会中、役員はTBCスタッフシャツを着ているので、わからないこと等は役員に。また、大会中（スロープ使用時・スタート時・帰着時・検量時・リリース時）は役員の指示に従うこと。

【エリアについて】

エリアについては、大会本部より利根川上流側は全域、下流側は潮止め水門まで（潮止め水門より110m以内は釣り禁止）長門川、根木名川、十日川、尾羽根川など利根川からの水路はエリアとする。

ただし、4月の第1戦に限り、支流・水路についてはエリア外とする。

閘門式水門を通過して支流に入ることはできない。閘門式水門が点検等で開いている場合でも、その内側に進入した場合は、釣り禁止エリア内への進入として失格とする。

エリア内で、特に定める禁止エリアは以下の通り。

■特に定める禁止エリア

- ・ 大会本部前（**上流側スロープ**～栄町消防署前のスロープ下流側端）
消防署前スロープに附帯する棧橋・杭等での釣りも禁止。
（資源保護のためにトーナメントに限らず禁猟区とする。）
- ・ 佐原の国土交通省のワンド・ドック
- ・ 潮止め水門より110m以内

エリア・エリア外の境界線は、ワンド・ドックの場合は利根川の川の流れのライン境界線とし、水門の場合は上下・開け閉める門のラインを境界線とする。（潮止め水門は手前110mまで）

【航行制限について】

以下のとおり航行を制限する。違反した場合は失格とする。

■デッドスロー航行とするエリア

- ・ 支流・水路等全て。

※デッドスローとは、ギアを入れただけの状態と定義する。

【釣法について】

釣法としてルアー又はフライフィッシングに限る。生き餌は使用禁止。2本以上のロッドの同時使用は不可。

【対象魚種】

ブラックバス

【キーパーサイズと匹数】

キーパーサイズ **全長30cm以上**（検量時の完全デッドフィッシュは無効）

■class-1: **生魚5匹**の総重量

ノンキーパーの持ち込みは-1,000g、規定匹数を超えての持ち込みは失格とする。

■regular、open challenge: **生魚3匹**の合計長寸

【ライフジャケットの着用の義務】

競技時間中、ボート上では必ずライフジャケットを着用すること。着用せずに走行・釣りしているところを役員が発見した場合は、その者を失格とする。

【オフリミット期間】

トーナメントクオリティを確保するため、**プラクティスは前日12:00まで**とする。違反した場合は失格とする。

【受付】

前日18:00まではTBC事務局にて受け付ける。当日朝はスロープにてスタート予定時刻の30分前まで受け付ける。

当日朝の受付ではお釣りは出せないので注意すること。極力、前日までに済ませること。受付時にエントリー用紙（兼検量

用紙）を受け取り、regular、Open Challengeではデジタルウェインカードも受け取ること。エントリー用紙・デジタルウェインカードはともに帰着・検量・リリースまで大切に保管すること。紛失・著しい毀損では失格

とする。

【ライブウェルチェック】

受付を済まされた方は、スタート前に、大会役員によるライブウェルチェックを受け、エントリー用紙に、ライブウェルチェック検査済の検印を受けること。

帰着時にエントリー用紙に、ライブウェルチェック検査済の検印が無い場合は失格とする。

なお、不正行為防止の為、ライブウェルだけでなくストレージ内も点検する場合がある。(パスポートはストレージを開けておくこと。)

【競技時間】

・class-1：原則としてスタートより概ね8時間

・その他：原則としてスタートより概ね7時間

(スタート・帰着時間は当日の状況により変わるので、ミーティング時に注意して聞くこと)。

スタート後、2時間で競技成立とする。

【開会式（ミーティング）】

スタート予定時刻の15分前には開会式（ミーティング）が始まるので、大会参加者は開会式が始まる前に、ボートを降ろし、棧橋に着岸・接岸（ロープでボートとボートで結ぶこと含む）もしくは、ボートに乗船したまま棧橋にできるだけ近い沖で待機すること。

開会式（ミーティング）が始まった時点で、大会参加者のボートが、まだ陸上にある場合と、受付締切時間が過ぎても陸上でタックル等の準備をしている、ボートでの大会参加者（同船者含む）にペナルティを課す場合がある。

【スタート】

class-1 → その他（概ねclass-1の全艇が上流・下流の水中堤防を過ぎる頃）の順のスタートとする。各カテゴリとも、上流側・下流側に分けてのスタートとする。バスポート（ステアリング方式の船をいう）は馬力順に1艇ずつのスタートとする。バスポートは、スタートを待つ他の船への引き波防止の為、**スタート地点から30mはデッドスローで走行すること。違反者にはペナルティ（-2000gまたは-50cm）を課す。**

バスポートのスタート後、アルミボート（チラーハンドル方式の船をいう）は一斉のスタートとなるので、スターターの指示に従うこと。

なお、事故防止の為、**上流は若草大橋、下流は千葉県側三連水門最下流の水門を過ぎるまでは追い抜き禁止**とする。（スターターを除く）違反者にはペナルティ（-2000gまたは-50cm）を課す。

スタート艇が1艇の場合は、スタート艇に向かって直進し、腕などにより、上流または下流の意思表示をし、スタート艇の確認がとれた後、転針すること。

【大会競技中の着岸・上陸禁止について】

大会競技中は、原則として大会本部前の棧橋以外の地点での着岸・上陸を禁止とする。（不正防止の為）

トイレ・故障・その他のトラブル等で、やむを得ない理由で大会本部前の棧橋以外に着岸・上陸する場合は大会本部に連絡するか、近くにいるか又は、通りかかった大会参加者（友人・身内を除く）か、大会役員にその旨を伝える事。ただし、救助および事故回避についてはこれを優先しこの限りではない。

【帰着報告】

帰着報告の受付は、帰着締切の30分前からとする。トラブル等でやむを得ず帰着報告締切30分前、以前に帰着する場合は必ず大会役員に連絡すること。

特別ルールとして30馬力以下のボートの帰着締切時間は10分遅れとする。

帰着報告の方法として、大会本部前の棧橋先端に大会役員がいるので、ボートを棧橋には着けずに、ボートに乗船のまま（エレキにて操船のこと）で、エントリー用紙を大会役員に提出し、釣った本数を申告の上、大会役員より帰着報告済印を受け
ること。帰着報告締切までに帰着の列に並べない場合は失格とする。

ノーフィッシュの者は、帰着報告係りに0本と申告し帰着報告済印を受け、そのまま帰着報告係りにエントリー用紙・デジタルウェインカードを提出すること。ノーフィッシュの者で帰着報告済印を受けてない者は、大会参加ポイントは与えない。

帰着報告締切10分前頃から棧橋は大変混雑するので各自、早めの帰還・帰着を心掛けること。

帰着報告時に、大会役員より、トレーラーウェインの指示を受けた場合は、ボートを陸上に上げずに、大会本部前棧橋に接岸して待機すること、また、デッド確認をスタッフに行ってもらうこと。（状況により、陸上げを許可する。）

【デジタルウェイン】

regular、Open Challengeではデジタルウェインとする。専用スケールを用いて魚全体とデジタルウェインカードが写るようにデジタルカメラで撮影し、[dw@tbc1999.com](mailto:dwtbc1999.com)までメール送付すること。メールタイトルにデジタルウェインカードNo.とTBC2020ゼッケン、氏名を記すこと。

撮影は口閉じ、左向きとする。（スケールが熱を持っている場合はスケールに水をかけてから撮影する等、魚へのダメージがないように心がけること）

3本を超えてウェインすることはできるが、明らかにそれまでの3本を超えていない場合はウェイン不要とする。

受け付けた事務局は受け付けた旨とサイズを返信する。（tbc1999.comからの受信を許可しておくこと）

【検量】※class-1

検量は速やかに受けること。エントリー用紙を大会役員（検量係）に提出し検量を受けること。検量係が、エントリー用紙に本数・ウエイトを記入し捺印をするので、確認すること。

なお、提出の際、エントリー用紙の参加費領収印・ライブウェルチェック印・帰着報告印・検量者検印の四カ所の一つでも捺印の無い場合は、そのエントリー用紙を無効とし失格となるので、各自で十分確認し提出をすること。

検量締切時間は帰着締切時間（30馬力以下のボートは+10分）から30分後とし、それまでに検量の列に並ばないものは失格とする。（トレーラーウェイン対象者についてはその限りではない。）

【リリース】

検量後、指定場所にて本人がリリースを行い、エントリー用紙にリリース確認チェックを受けること。

（ゲレンデ状況により、リリース確認チェックはない場合がある）

【トレーラーウェインについて】

class-1についてはトレーラーウェインを行う。

class-1の検量後、ただちに開始するので前もって準備をすること。

運転手がない場合はスタッフまで連絡すること。

ウェインバッグに水を入れておくなど手際よく行えるように工夫すること。

【表彰式】

class-1の検量後ただちにトレーラーウェインを開始する。片付け等を中断してすぐに集合すること。著しく遅れるようなケースでは次戦にペナルティを課す場合がある。

規定匹数の総重量または合計長寸により、“class-1” / “regular&open challenge” に分けて順位を決定する。同重量・同長寸の場合は TBC1999 ゼッケンの若番を上位とする。

ビッグフィッシュ賞は“class-1” / “regular&open challenge” それぞれに1匹の重量・長寸により決定する。

全員参加とし、無断での帰宅は失格とする。

上位入賞者、ビッグフィッシュ賞について表彰式にてインタビューを行う。

(クラシックでの順位決定については別掲)

表彰対象者はトーナメントシャツを着用すること。持っていないものには貸与するのでスタッフに申し出ること。

【1～5位入賞者のレポート提出について】

1～5位入賞者には、フィッシングレポート報告の義務を課す。大会終了1週間後までに、「エリア」、「タックル・釣果」、「釣り方」、「コメント」について、report@tbc1999.com まで送信すること。

レポート提出なき場合はポイント剥脱となることがある。

【参加賞】

regularとopen challenge参加者には参加賞がある。

【事故・故障発生時】

大会中に発生した事故・エンジン故障などにより、自力にて時間内に帰着ができない場合、および他の船舶等に牽引されて帰還・帰着した場合は失格とする。(安全義務違反)

なお、万が一事故・エンジン故障などが発生した船舶を牽引する場合は、誰が誰の船舶を牽引するかをTBC事務局に連絡・報告してから牽引すること。(連絡・報告の無き場合は牽引した者も失格とする)

※連絡先は表紙に記載(留守電になっている場合はメッセージを入れること)

【携帯電話等について】

大会本部より緊急連絡をすることがあるので常に携帯すること。また、「tbc1999.com」からのメール受信を許可しておくこと。

なお、競技時間内は緊急を要する連絡以外での利用は禁止とする。

【ルール黙認の禁止】

ルール違反の黙認は、その違反者と同罪となる。違反者を目撃しておきながら本部に報告せずに後で話題にした場合は、ルール違反を黙認したことになるので、可能な限りその場で忠告し、顔・船のメーカーおよび色等を確認しておくこと。なお、他の大会参加者のペナルティまたは失格に関わる申し立ては当日の検量終了時までにはTBC会長・副会長に対して行うものとする。

【ポイント制について】

利根川バスクラブでは、class-1、regularそれぞれのカテゴリ毎にポイント制を導入し、第1～5戦の順位ポイントを加算し、第5戦終了時に年間総重量・合計長寸ポイントを与えて、ランキングを決定する。順位ポイントは、class-1は優勝者から順に30ポイント～20位11ポイント、regularは優勝者から順に50ポイント～40位11ポイントとし、以下の者5ポイントとする。ただし、それぞれ20位、40位以内であってもノーフィッシュの場合は参加ポイントの5ポイントのみとする。

総重量・合計長寸ポイントも、class-1は1位3ポイント～20位11ポイント、regularは1位50ポイン

ト～40位11ポイントとする。

ポイントがタイの場合、順位ポイント、総重量・合計長寸ポイントの順にランキングを決定する。

open challengeについてはポイントを与えず、年間表彰も行わない。

【フィッシュオフ】※TBC2020においてはスケジュールの都合上、実施しない予定

class-1の11位～15位、regularの21位～40位の計25名にてフィッシュオフを行う。3匹の総重量により、カテゴリを問わず順位を決定し、上位5位タイまでにクラシック出場権利を与える。

フィッシュオフは天候等による順延等で日程が取れない場合は開催しないこともある。

【クラシック】

出場権利はclass-1、regularともに年間総合順位上位者（class-1：10名、regular：20名）、フィッシュオフ上位5名、前年度クラシック優勝者（今年度も登録している場合に限る）、会長が推薦する者に与える。ラージマウスバス5匹の総重量により、カテゴリを問わず順位を決定する。同重量の場合は登録番号の若番を上位とする。

【プレス乗船について】

登録番号1～3の選手にはTBC2017全戦、各大会優勝者には次大会において、プレスが乗船することがある。その他必要と認められるケースにてプレス乗船を指定することがある。プレス乗船を拒否する場合、大会に出場することはできない。その場合、エントリーフィは返還されない。
上記以外でプレスを乗船させる場合は、事前に大会事務局へ通知し、許可を得ること。

【TBC初参加の方】

当日、開会式の前に大会本部前にて、TBC初参加の方の為に、大会役員が説明するので、ルール等に少しでも不安や疑問等がある方は必ず大会本部前に集まること。その前に受付・ライブウェルチェックは済ませること。

【TBCワッペン の 装着 について】

大会参加の際（受付時・ライブウェルチェック時・帰着報告時・検量時・表彰式時）には、シャツまたはライフジャケットのゼッケン番号が確認できる場所に、TBCワッペンを接着剤で接着か、又は縫い付けること。各自によるトーナメントシャツへの刺繍も認める。

大会役員が、ワッペンを確認できない者は失格とする。

ワッペンは配布済みのワッペンを継続利用すること。TBC新規登録の方には配布するので、大会前日までにTBC事務局にて受け取ること。（配布開始時期はホームページにて発表。）

open challengeに参加する者や、紛失した者には2,000円で販売する。（TBC事務局、当日の大会本部にて）

【TBCトーナメントベルト（認識ベルト）の装着について】

大会参戦のボートのエレキ部分（エレキ使用時・走行中でも認識できる部分）に装着すること。

ライブウェルチェック時に、利根川バスクラブのトーナメントベルト（認識ベルト）の装着も大会役員がチェックを行う。競技中に、大会役員がトーナメントベルト（認識ベルト）の未装着の大会参加者を発見した場合、その大会参加者にペナルティを適用する場合がある。

class-1：オレンジ、その他：チャートグリーンとする。（TBC新規登録の方のみ配布する。）

open challengeで新たに購入する者や、紛失した者には1,000円で販売する。（TBC事務局、当日の大会本部にて）

【スムーズな大会進行の為に】大会前日から！

土手側からなるべく詰めて駐車すること。大会本部付近、スロープ前、川側は大会当日に限らず駐車禁止とする。

上流側スロープの上流側スペースはスタッフの駐車エリアのため、駐車禁止とする。これらに加えて、著しく隊列を乱す駐車についても、ペナルティを課すことがある。また、大会役員による移動要請等に従わない者は失格とする。

ランチング時はボート担当、車担当の二人以上で行い、無人の車がスロープに置きっぱなしになることのないようにすること。（一人の場合は、大会役員に声を掛けること。）

受付が始まる前に大会会場に到着した場合、受付前にボートをスロープから降ろすこと。受付が始まってから大会会場に到着した場合、直ちに受付を済ませること。

ボートを着岸・接岸しボートとボートをロープで結ぶ場合、アルミボートの方はFRPボートにキズ等を付けないよう十分に注意すること。参加大会参加者同士のトラブルを防ぐためにも大棧橋にはアルミボートのみ、大会本部前棧橋にはFRPボートのみでの着岸・接岸（ロープでボートとボートで結ぶことを含む）とする。

【安全に楽しく大会を遂行する為下記事項を必ず守ること】

利根川には水中堤防、危険箇所が多々あり、重々注意すること。木下より上流は、アルミボートでも、川の道を知らない場合は航行困難なので、十分に注意のこと。

浚渫船（しゅんせつ）の付近を通過の際は、浚渫船より対岸・前方・後方・側面に張ってあるワイヤーロープには十分注意すること。時には水面より50cm程上にワイヤーロープがあるので、特にバスボートは最徐行にて通過すること。

本流より支流に進入する場合、特に長門川の入口付近に大きな岩盤があり走行方によっては、船体・船外機の破損につながる所以注意すること。潮の干満・降雨による水位の変化には十分注意すること。

エリアバッティングについては、先行者に声を掛けるなど、当事者同士で円満に楽しく釣りをしましょう。

利根川では、バスフィッシングの他、マリンスポーツや鯉・へら鮒などの釣りが大変盛んです。マリンスポーツを楽しんでいるスロープ付近や鯉・へら鮒などの釣りを楽しんでいる釣り人の付近をボートで通過の際はアイドリングでの走行とする。

特に鯉釣りは川の中ほどまでラインを出している所以十分注意すること。お互いにルールとマナーを守り、皆が利根川での釣りを楽しめるように、大会参加の皆様一人一人が心がけること。

以上